

果実販売動向

販売課 田中 瑠偉



3月の果実動向は全体的に不安定な入荷と流通在庫から弱含みでの推移となりました。

イチゴについては、3番果が数量減でスタートし、時期的に企画の中心であることから、引き合いの強い状況が続き堅調な販売となりましたが、好天に伴い潤沢な入荷となり、量販店でも積極的な企画展開が図られ、価格については弱保合いながらも活発な荷動きとなりました。

「不知火」等を中心とした中・晩柑橘類については好天による前進化から数量増となり、売場は維持されていますが、ヤケ・傷等の品質低下から弱含みでの展開となりました。

りんごについては、一部学校給食向けや業務関係を中心に新型コロナウイルスの影響を受けていますが、外食産業の低迷から量販店における「買いだめ」の流れから引き合いは強まっており、サンふじの中玉以下を中心に堅調な販売

となっております。ジョナゴールドについても、総体数量の少なさから高値基調となっておりますが、小玉果へ引き合いが傾注し、品質面でも油上がりは少ないが、果肉が軟質傾向にあることから大玉果については厳しい販売となっております。王林、シナノゴールド等の黄色系については売り場が広がらず引き合いは限定的となっております。そのような状況のなか、当JAでは、サンジョナのスマートフレッシュ処理ものが品質維持とともに3月中旬に切り上がり、下旬から1ランク上げでジョナゴールドの販売へ切り替わっています。

サンふじについては、4月からスマートフレッシュものに切り代わり1ランク上げとなります。有袋ふじが更に1ランク上げでの併売となっております。黄色系については、ほぼスマートフレッシュに切り替わり、王林については香港中心に4月中旬ごろに終了予定。シナノゴールドについては上位等

級については台湾向け中心、国内は長期販売する予定です。

今後もウイルスの影響から消費宣伝が組まれないなか、競果果実の直接手を触れない商材への引き合いが強くなり、百貨店等を中心に上位等級玉売りへの影響が出ていますが、りんご全体量が少ないことから、品質管理と情報収集を徹底し、有利販売に努めます。



スマートフレッシュ処理をした製品が積まれる

単価は全農あおもりデータ（3／31累計）、在庫数量は県りんご果樹課作成（2月末）

品 種	サンふじ	ふ じ	王 林	ジョナ	む つ	その他	合 計
単 価 (円)	3,175	4,737	2,973	3,201	4,548	2,944	3,006
前 年 比 (%)	121	88	103	117	98	108	111
在庫数量 (ト)	45,610	26,936	9,999	11,701	221	6,114	100,581
前 年 比 (%)	77	113	109	83	78	112	89



○りんごの生育状況

今年の積雪状況は3月26日の調査で管内ほぼ全ての調査地点で消雪が確認され、昨年よりも2週間程早い消雪となりました。

また、湯口、紙漣沢、相馬地区でふじの発芽が4月1日に確認され、昨年より8～11日早い生育となっております。

開花については、今後も気温が平年よりも高くなることが予想される為、相馬管内ではふじで4月30～5月2日頃と昨年よりも6日程早くなる見込みです。予報よりも開花が早まることが考えられ、春の作業が本格的に始まりますので準備を早めに行いましょう。

○春の低温に注意

また、開花期から幼果期における降霜や、低温による凍霜害の発生が懸念されることから、防霜ファンを設置している園地では機器の始動点検を行い、稼働状況を確認して下さい。防霜ファンを設置していない園地では燃焼資材の準備を

行い、被害の軽減に努めて下さい。燃焼資材を使用する場合は周辺環境にも十分に配慮しましょう。

○良品果実生産にむけて

高品質かつ大玉果実生産にむけて授粉を積極的に行いましょう。授粉作業を行うことで結実量を安定的に確保し、奇形果実となるのを防ぎます。

人工授粉を行う場合は、交雑和合性に注意し、中心花を主体に授粉し早く咲いた花から行いましょう。

○展葉一週間後頃の薬剤散布

りんごの生育が早めに経過していることから、『展葉一週間後頃』の薬剤散布は早い地区で4月18日前後、遅い地区で4月21日前後と予想されます。黒星病は昨年同様に薬密度が高い状況と考えられます。そこで、薬剤による防除効果を最大限活かすため、昨年黒星病被害が特に多く見られた園地の原因事例を紹介いたします。

■ 散布間隔が10日以上あった。

※昨年と同様に黒星病剤は予防効果のみとなりますので、雨前防除で散布間隔はしっかり守りましょう。

■ 散布量が少なかった。

※散布量が少ない事やSSの速度が速いと、薬液が葉に付着する量も少なく、内枝などには掛かっていないことが考えられるので適量散布に努めましょう。

■ 風が強い日の薬剤散布。

※風が強い日に散布を行うと、樹全体にまんべんなく薬がかかることが困難となり、散布ムラによって黒星病の感染が広がってしまうので風の強い日の薬剤散布は控え、出来る限り無風に近い日に散布しましょう。

これらの事例を踏まえて丁寧な薬剤散布を行い黒星病の被害を最小限に抑制しましょう。

農作業が本格的に始まっています。機械による作業は特に気をつけ、安全を心がけ事故の無いように注意して行いましょう。

散布計画	散布量	散布時期	基準薬剤	希釈倍数	備考
1	300ℓ	展葉1週間後頃 (4月中旬)	ペフラン ダズバンDF アプロード マシン油	1,000倍 3,000倍 1,000倍 200倍	○混用順序 ①水→②マシン油→③ダズバン→④アプロード→⑤ペフラン
2	320ℓ	開花直前 (4月下旬)	オルフィンF 又はパレード15 アタブロンSC	4,000倍 2,000倍 4,000倍	○黒星病の重要防除時期のため、散布量・散布間隔(10日)を厳守する。 ○殺虫剤は、開花直前・落花直後とも同一薬剤を連続散布する。
3	350ℓ	落花直後 (5月上旬)	ユニックス顆粒 ジマンダイセン アタブロンSC カルシウム剤	2000倍 600倍 4000倍	

りんご病害虫防除暦(第1回目～3回目)